令和4年度

宇奈月ダムと出し平ダムの連携排砂等実施のお知らせ

平素は、黒部川の治水事業および発電事業に対し、格別のご理解賜り厚く御礼申し上げます。

黒部川の宇奈月ダムと出し平ダムの「連携排砂計画」については、「黒部川土砂管理協議会（5月24日開催）」での協議・調整を経て6月1日から8月31日までの間において「連携排砂」、「連携通砂」及び「細砂通過放流」の実施を予定しております。

「連携排砂」、「連携通砂」の実施中は、川の水位が大きく変化することや、実施後も取水停止による用水の断水が続きますので、ご注意・ご協力のほどお願いいたします。

連携排砂・通砂実施中の情報について

連携排砂・通砂の情報は、みらーれテレビ行政コミュニティチャンネル(091ch)上にテロップにて表示のほか、ツイッターと黒部河川事務所ホームページ、携帯サイトよりお知らせします。

愛本えん堤の情報（合口取水停止、再開）は、ホームページ、ツイッターでもお知らせします。

みらーれテレビ(091ch)テロップ

出水のため、愛本からの取水が停止されます。

▼

連携排砂（通砂）の実施中です。

▼

愛本からの取水は停止中です。

▼

まもなく愛本からの取水が再開されます。

▼

愛本からの取水が再開されました。

以上の内容について、テロップでお知らせする予定です。

ツイッター

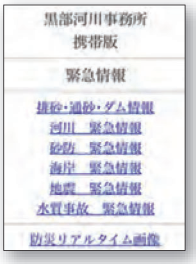
黒部川連携排砂 ツイッター
https://twitter.com/kurobe_haisya

▲ 登録方法の詳細は本チラシ内に掲載しています

黒部河川事務所ホームページ

排砂・通砂・ダム関連情報
黒部河川事務所
http://www.hrr.mlit.go.jp/kurobe/

黒部の防災情報携帯サイト



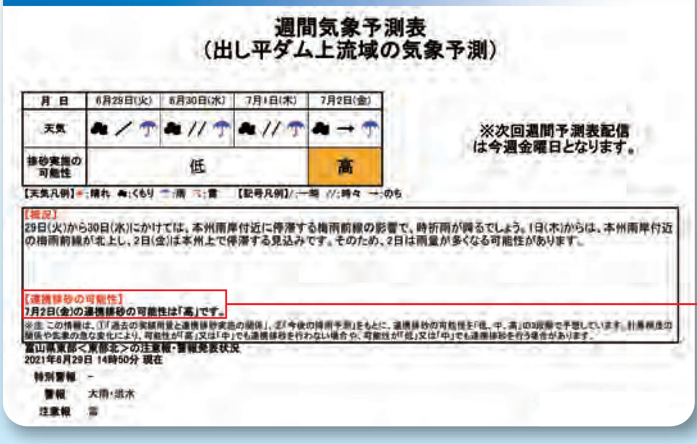
黒部河川事務所
「黒部の防災情報携帯サイト」
https://cgi.hrr.milt.go.jp/cgi-bin/kurobe/i/index.cgi

iモード版
http://www.hrr.milt.go.jp/kurobe/bousai-i/

連携排砂の予報

6月～8月末までの間、毎週火曜日と金曜日※に連携排砂等の予報（実施の可能性が「高、中、低」）を黒部河川事務所ホームページ、ツイッターにてお知らせします。※火曜日と金曜日が休日の場合は、直近の平日に実施します。

ホームページのお知らせイメージ



週間気象予測表
（出し平ダム上流域の気象予測）

月日	6月29日(火)	6月30日(水)	7月1日(木)	7月2日(金)
天気				
排砂実施の可能性	低			高

【天気凡例】☀:晴れ ☁:くもり ☂:雨 ☃:雪　【記号凡例】/:一時 //:時々 →:のち

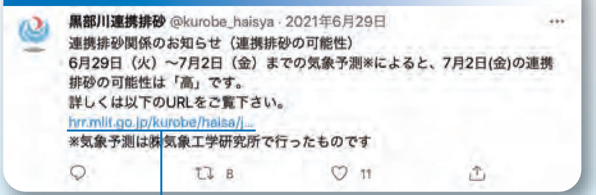
※次回週間予測表配信は今週金曜日となります。

【概況】
29日(火)から30日(水)にかけては、本州南岸付近に停滞する梅雨前線の影響で、時折雨が降るでしょう。1日(木)からは、本州南岸付近の梅雨前線が北上し、2日(金)は本州上で停滞する見込みです。そのため、2日は雨量が多くなる可能性があります。

【連携排砂の可能性】
7月2日(金)の連携排砂の可能性は「高」です。
※注：この情報は、①「過去の実績雨量と連携排砂実施の関係」、②「今後の降雨予測」をもとに、連携排砂の可能性を「低、中、高」の3段階で予想しています。計測精度の関係や気象の急な変化により、可能性が「高」又は「中」でも連携排砂を行わない場合や、可能性が「低」又は「中」でも連携排砂を行う場合があります。

富山県東部＜東部北＞の注意報・警報発表状況
2021年6月29日 14時50分 現在
特別警報　－
警報　大雨・洪水
注意報　雷

ツイッターのお知らせイメージ



◀ ホームページと同じ画面へ

連携排砂、連携通砂及び細砂通過放流の可能性「高、中、低」をお知らせします。

自然な土砂の流れを目指して

黒部川とダムとがより自然な形で共存するには、ダムの機能を維持し、下流域の河床低下や海岸侵食など自然環境への影響を少なくすることを総合的に考慮し、ダムに流入する土砂をより自然な形で通過させることが重要となっています。

・・・ 連携排砂・通砂についての Q&A ・・・

Q, なぜ排砂・通砂は必要なのでしょうか?

A, ダムによる土砂問題を解決するために必要と考えています。

ダム上流の大崩壊地(小黒部谷)

黒部川での土砂に関する問題点

- 黒部川流域は地質がもろく降水量も多いため、大量の土砂が発生し、黒部川下流に流出します。この量は、１年間で東京ドーム１杯分（約124万立方メートル）以上にのぼります。
- ダムが無くても土砂は大量に流れてきます。もしダムにたまった土砂を下流に流さなかった場合、ダム湖が土砂で満杯になってしまいます。
また、河床低下や海岸侵食がさらに進行し、護岸や橋梁の基礎が浮き上がるなど、被災しやすい状態となります。

梅雨前線出水状況(愛本地先)

ダムにたまった土砂を定期的に、ダム下流へ流す必要があります。

Q, 初期の頃の排砂・通砂と現在のやり方ではどう違うの?

A, 排砂による影響を小さくするために、以下のように実施しています。

- 平成３年には、出し平ダム完成から６年間ため込んだために変質した土砂を流したため、下流に大きな影響を与えました。しかし、現在の方法は、土砂が変質する前に排砂・通砂を毎年実施し、排砂による環境の影響が小さくなるよう配慮しています。
- 平成３年は１２月の川の水が少ない時期に行いましたが、現在は水量が多く濁っている出水時に排砂を実施しています。
- 自然に近い排砂を目指し、排砂方法については専門家のご指導をいただき地域のご理解を得ながら実施しています。
- 令和２年度から、より自然に近い土砂動態を目指し「宇奈月ダム先行操作」など更なる排砂方法の工夫に取り組んでいます。
- １年を通してダム貯水池、河川、海岸などの広範囲にわたり環境調査を行い、影響を把握・監視しています。また、データはすべてホームページにて公開しています。

河川での採水状況

黒部川扇状地より日本海を望む

連携排砂って何？

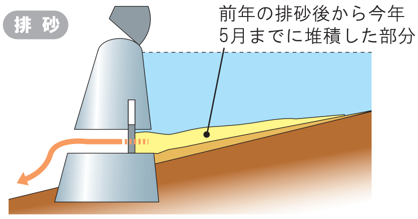
連携排砂とは、宇奈月ダム(国土交通省)とその7km上流に位置する出し平ダム(関西電力)で排砂実施期間(6月〜8月)に連携して排砂を行うことです。

排砂中の出し平ダム(H26)

「排砂」と「通砂」の違いとは？

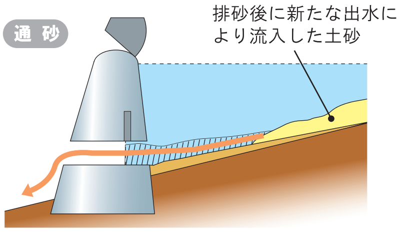
「排砂」とは・・・

ダム湖内にたまった土砂を出水時に排出させることをいい、前年の排砂または通砂実施後に堆積した土砂をその年最初に排出することをいいます。



「通砂」とは・・・

排砂実施後に、大きな出水が発生したときに上流から流れ込む土砂をダムにためることなく、下流へ通過させることをいいます。



排砂中の宇奈月ダム(H26)

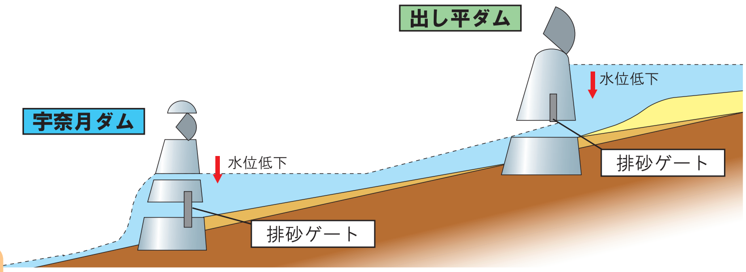
連携排砂・通砂の方法！

ステップ1

ダムの水位を下げます

ダム湖内を川の流れにするためにダム湖内の水位を下げます。

排砂・通砂のための準備です

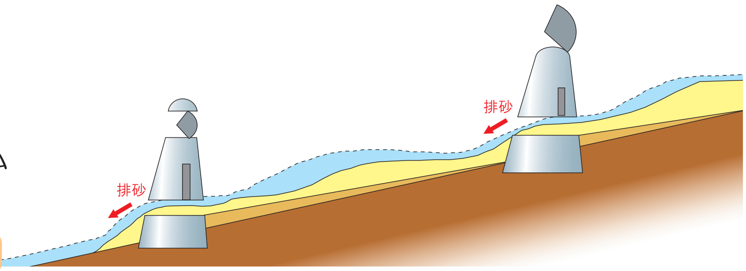


ステップ2

土砂を排出します

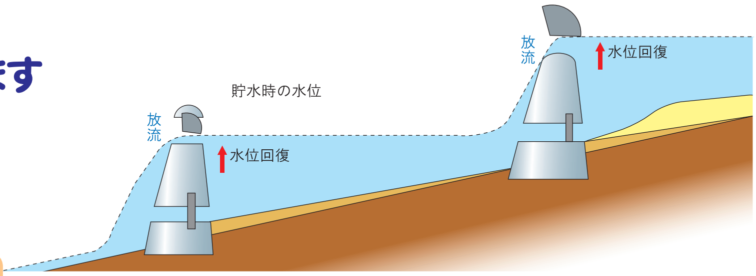
川の流れる力を使い、土砂と水をダム下流に一定の時間排出します。

この状態が排砂・通砂です。



ステップ3

最後にもう一度水を流します

ダム下流の川にたまった細かい土砂を洗い流すために、ダム湖内の水位を回復させ上流からの流水を一定の時間、下流に流します。

排砂・通砂の影響を小さくします。